

## 大分県におけるノスリの岩壁繁殖記録

加藤吉勝<sup>1</sup>・矢次弥生

1. 〒870-0011 大分県大分市片島 6組

### はじめに

ノスリ *Buteo buteo* は、おもに留鳥として本州中部以北で繁殖し、四国、九州中部以南では冬鳥であることが知られている。

大分県においては留鳥で繁殖するとされてきたが(日本野鳥の会大分県支部・大分県野鳥友の会 1992), その時期や地名, 繁殖の状況等の報告はされていない。このたび, 大分県宇佐市においてノスリの岸壁における繁殖が確認されたので報告する。

### 調査地および調査方法

ノスリの繁殖を確認した場所は大分県北部(宇佐市)の低山帯, 標高約 400~500m付近である。営巣地周辺は複数の谷が連なり, ケヤキ *Zelkova serrata*, カシ *Quercus sp.*, エノキ *Celtis sinensis*, ノグルミ *Platycarya strobilacea*, コナラ *Quercus serrata* 等の混交林が成立し, スギ植林も多い。ノスリの営巣を観察した谷およびその周辺は, 前述したケヤキ, カシ等各種の高木が生育しており, 南北に流れる川の両側に尾根が伸びている。東側の尾根の中腹には耶馬溪溶岩による岩壁が露出しており, 尾根の北側の一部は草地となっている。さらに北方向, 営巣地から下流 500m 付近からは集落となっており, 棚田が続いている。西側の尾根はスギ植林でおおわれ, 南側の一部はスギ伐開地となっている。

観察は2006年 6月12日から 7月16日まで, のべ 6日間行なった。特に調査時刻は定めず, おもに巣から約 200m離れた谷の対岸からブラインドや車に隠れて行ない, 8~10倍の双眼鏡と30倍の望遠鏡を使用した。また, 必要に応じデジタルカメラ等による写真撮影やスケッチ, 動画撮影を行なった。

---

2007年 3月14日 受理

キーワード: *Buteo Buteo*, ノスリ, 大分県, 岸壁,

※本人の希望により電子版では一部の住所を非公開にしました。(2023年7月18日編集)



図 1. 営巣谷の周辺環境.

Fig. 1. The nest site of Common Buzzard.



図 2. 巣内で羽ばたき練習を行なうヒナ  
(2005年6月26日).

Fig. 2. A young buzzard having a bout of flapping practice in the nest (June 26 2005).

## 結 果

### 営巣環境

ノスリの巣は調査地にある、尾根の中腹に露出した西向きの岩壁に造られていた(図 1)。岩壁全体の高さは最深部からおよそ 150m 程度で、巣は谷底部からおよそ 100m 程度の高さにあった。目測による巣の大きさは、縦 1m、横 1m、厚さ 80cm 程度であった。岩棚の上に木の枝を積んで巣を作っているが、表面にはクズ *Pueraria lobata* が繁茂しており、中の様子はほとんどみえなかった。

巣の周辺には枯れ木等による止まり場が数か所あり、親鳥はそれらに頻繁にとまって巣を見張っていた。朝夕および悪天候時には長時間、止まり場にとまっていた。

### 観察経過

ノスリを最初に確認したのは 2005 年 6 月 12 日であった。つがいと思われる成鳥 2 個体、繁殖とは無関係と思われる成鳥 1 個体の計 3 個体を確認した。侵入個体の出現直後に、つがい個体 1 羽による波状飛行ディスプレイが行なわれ、続いてつがい 2 羽による帆翔が行なわれた。また、つがい個体がヘビと思われるものを脚につかんで運搬していたため、運搬方向に定点を移動して観察した結果、岩壁に巣があるのを発見した。その後、営巣谷付近にサシバ *Butastur indicus* が現れたが、特に追い出し行動などは確認されなかった。

6 月 19 日と 26 日の観察では、巣内にヒナ 1 羽が確認された。6 月 26 日にはかなり成長しており、羽ばたき練習を行っていた(図 2)。餌の運搬は観察期間を通して計 3 回確認され、6 月 12 日と 19 日にヘビと思われるものが 1 回ずつ、6 月 19 日にカエルと思われるものが 1 回運搬された。成鳥は尾根より低い高度で巣に飛来し、谷部から吹き上げる風を利用して巣に降りていた。巣への滞在時間は短く、数秒程度で付近の止まり場に移動、または飛去した。

7月2日以降、7月9日と16日に観察を行なったが、ヒナおよび成鳥の姿は確認されておらず、巣立った可能性があった。

なお、翌2006年には5月5日に営巣谷で成鳥1羽の止まり行動を確認したのみで、抱卵や育雛等は確認していない。

## 考 察

一般に、日本のノスリは樹上営巣の報告が多く(森岡ほか 1998)、営巣木はアカマツ *Pinus densiflora* やカラマツ *Larix kaempferi* などが報告されているが(森岡ほか 1998, 植田 2006)、新潟県魚沼地方では岩壁繁殖した事例も報告されている(小島 1992)。小島(1992)ではさらに、岩壁営巣事例の環境特性として、①営巣地は急斜面にあること、②谷底から巣までの比高が100m前後あること、③営巣岩壁の前方はある程度開放的であること、④巣は切り立った岩壁の岩穴や棚上の安全な場所にあること、⑤巢内へは直射日光が長時間入らないことを挙げているが、今回の観察事例でも同様の傾向がみられた。⑤についてはさらに、巢の周囲に繁茂したクズやフジ *Wisteria sp.* が一定の遮光効果やカモフラージュ効果をもたらしているように思われた。

九州内の近隣県では、熊本県阿蘇地方でノスリが岩壁繁殖した記録がある(井上・本田 1996)。また、井上・本田(1996)の記録と同一であるかどうかは不明であるが、日本野鳥の会熊本県支部報には、ノスリ幼鳥の写真が掲載されており(高木 1996)、岩壁繁殖であることと、巢の周囲にフジと思われるツル性植物が繁茂しているのがみてとれる。これだけの記録をもって九州のノスリが岩壁繁殖を好むとはいえないが、植生等の違いにより、他地域の個体群と営巣環境の選択性に差異がある可能性もある。例えば、九州中部の大分県では、カラマツは少なく、標高800m程度でもシイ *Castanopsis sp.* やカンなどの常緑広葉樹林が成立する(荒金 2003)ほか、スギ植林が盛んで人工林率が高い(大分県 2006)。松枯れも進んでいるため、他地域で営巣木として報告の多いアカマツやカラマツなどの大木は少ないものと思われる。他の九州各県におけるノスリの繁殖記録については、今までに確認された例はない。

大分県内では、今回営巣が確認された場所に類似する、森林に崖地を伴う環境が他にも存在する。また、今回の繁殖つがい以外のノスリも同時期に確認されたことから、今後も県内で繁殖個体が見つかることが期待される。しかし、ノスリは少ない留鳥とされており、夏季の記録は少なく観察地域も限定されていることから(大分県 1982, 日本野鳥の会大分県支部・大分県野鳥友の会 1996-2006)、全県的に夏季の生息数は多くないものと思われる。

ノスリの日本産亜種 *Buteo buteo japonicus* については、九州中部の繁殖個体群は、同亜種の繁殖分布の南限にあたるものと思われ(森岡ほか 1998)、生態的にも貴重な個体群であるといえるかもしれない。

熊本県のレッドリストにはノスリは地域個体群として掲載されている(熊本県 2004)が、大分県においても観察事例の蓄積と繁殖個体群に対する希少種指定等の検討が望まれる。

## 謝 辞

本論文を作成するにあたり、日本野鳥の会大分県支部の宇野久生氏には大分県内の文献の紹介や情報を提供して頂いた。また、九州大学大学院生態学研究室の河野かつら氏には執筆に際してアドバイスや意見を頂いた。記して感謝する。

## 引用文献

- 荒金正憲. 2003. 豊の国 大分の植物誌. 佐伯印刷, 大分.
- 井上賢三郎・本田和彦. 1996. 野鳥情報・観察記録. *Strix* 14: 205-211.
- 小島幸彦. 1992. 新潟県魚沼地方において岩壁営巣するノスリ *Buteo buteo* の営巣環境. *Strix* 11: 91-98.
- 熊本県野生動植物検討委員会. 2004. 熊本県の保護上重要な野生生物リストーレッドリストくまもと2004ー. 熊本県, 熊本.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1998. 図鑑日本のワシタカ類 第2版. 文一総合出版, 東京.
- 日本野鳥の会大分県支部・大分県野鳥友の会. 1992. 20周年記念誌. 日本野鳥の会大分県支部・大分県野鳥友の会, 大分.
- 日本野鳥の会大分県支部・大分県野鳥友の会. 1996-2006. 支部報「たより」. 日本野鳥の会大分県支部・大分県野鳥友の会, 大分.
- 大分県農林水産部農林水産企画課. 2006. 大分県の農林水産業. 大分県, 大分.
- 大分県林業水産部緑化推進課. 1982. 大分県の野鳥. 大分県, 大分.
- 高木博敏. 1996. 支部報「野鳥くまもと」9号. 日本野鳥の会熊本県支部, 熊本.
- 植田睦之・百瀬浩・中村浩志・松江正彦. 2006. 栃木県と長野県の低山帯におけるオオタカ・サシバ・ハチクマ・ノスリの営巣環境の比較. *日本鳥学会誌* 55(2): 48-55.

Record of Common Buzzard *Buteo buteo* breeding on a cliff  
in Oita Prefecture, southern Japan

Yoshikatsu Kato<sup>1</sup> & Yayoi Yatsugi

<sup>1</sup>. 6 Katashima, Oita, Oita 870-0011, Japan

In June 2005 we confirmed the breeding of Common Buzzard *Buteo buteo* in Oita Prefecture, Kyushu, southern Japan. This is the first record of the species breeding in Oita Prefecture.

The nest was located about 100m above the ground on a ledge of a vertical cliff face with a western exposure. It was made of sticks with *Pueraria lobata* growing thickly in front of it, which obstructed the view of the inside of the nest.

We carried out observations on June 12, 19 and 26 and July 2, 9 and 16 2005. On June 19 and 26 we observed a young in the nest. On July 9 and 16, however, we did not confirm the nestling nor the parent birds, which suggests the young had fledged.

*Key words:* Common Buzzard, Oita, Cliff, *Buteo buteo*

※本人の希望により電子版では一部の住所を非公開にしました。(2023年7月18日編集)

